

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676900113
法人名	医療法人 共生会
事業所名	グループホーム びろうの樹
訪問調査日	平成 21 年 3 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4676900113
法人名	医療法人 共生会
事業所名	
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉6166-1 (電話) 099-474-0033

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月23日

【情報提供票より】21年2月15日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤	人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,000(管理費) 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	8 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	びろうの樹脳神経外科 ・ 飯山歯科医院
---------	---------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の医療施設の敷地内にあったグループホームびろうの樹は、昨年4月に国道220号線を少し山側に入った所に転居し、旧ユニットに新しく1ユニット増設して、2ユニットで運営している。利用者は、ポニー3頭、ヤギの親子4匹、猫1匹と共に広い敷地にゆったりと暮らしている。利用者の年齢幅もあり一人ひとりの好きな事、出来る事を職員は把握し、回復へ向けた努力を重ねている。地域との交流も積極的に進めており、敬老会には地域の方も招待し一緒に踊りや歌を楽しんでいる。また、運営母体が医療法人であるため、緊急時における医療体制が整い、毎日看護師による健康管理も行われ、利用者と家族にとって安心して過ごせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回での改善課題は、重度化や終末期に向けた方針の共有についてで、運営者や関係者と話し合い事業所としての対応の指針を作成している。また、近隣との交流を進めてほしいというアドバイスを受けて、新しい場所に移ってから自治会に加入し、地域の会合に参加するなど積極的な交流に努め、認知症に対する理解を求めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員がミーティングなどで話し合いながら、自己評価をまとめている。自己評価を通して自分のケアに対する振り返りの機会としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、地域住民代表、民生委員、家族代表、市職員、福祉分野の知見者が参加して2ヶ月に1回開催されている。事業所の行事報告や研修報告を行い、意見交換を行っている。利用者が参加されることで地域の方や市職員に、認知症について理解を深めてもらうことができている。また、地域の高齢者の課題について事業所からアドバイスしたり、行政の介護福祉における取り組みについて知る機会となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や行事の後で家族が集まって意見や要望を出してもらえる機会を作っているが、感謝の言葉を頂くことが多く意見や苦情については出ていない。職員は、家族の面会時などに利用者の日頃の様子を伝えと共に、意見や要望がないかを確認している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の会合に参加したり、リサイクルや清掃活動にも協力している。回覧板の受け渡し時にはお話ししたり、料理指導をしてもらったり、散歩時には声を掛け合ったりと近隣との付き合いも増えている。4月にある消防訓練には地域の方にも参加してもらった事になっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「毎日を楽しく充実した日であります様、ご家族、ご近所、地域の方との心からのふれあいを大切にします」と、理念を地域密着型サービスが始まった後に、職員と話し合って作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、ホールに理念を掲げ職員がいつでも確認できるようにしている。職員は利用者の好きな事、出来る事を尊重し、無理強いせずに楽しくできるように手助けすることを心がけることで理念を反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の会合や清掃活動に参加し、リサイクル運動への協力を行っている。敬老会は地域の方を招いて、歌や踊りを共に楽しみ、畑の指導に家族の方や近隣の方が来られるなどの交流をしている。ボランティアや中学生の職場体験の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果については、職員に伝えると共に改善点については、施設長と管理者で話し合い「重度化・終末期ケア対応指針」を作成し職員に伝えている。自己評価については、管理者と職員で話し合いながらまとめている。ケアに対する反省の機会としている。		k
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に利用者も出席することで、地域住民や行政担当者などが認知症に対する理解を深める事につながり、地域高齢者の課題としている事に対して、事業所や行政からのアドバイスを受ける機会となり、良き意見交換の場となっている。今度、地域住民の協力を得て消防訓練を行う事になっている。		

鹿児島県 グループホーム びろうの樹

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の窓口に出向き書類を届けたり、相談に行ったりと、顔馴染みの関係を築いている。福祉課からも見に来られるなど、行き来しながらサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	びろうの樹便りは年4回発行している。主に電話で報告し、遠方の家族には利用者の声を聞いてもらっている。地域にいる家族が多いので面会時に日頃の様子や健康状態を報告し、金銭出納帳についても領収書と金額を確認してもらっている。	○	遠方にある家族には、電話報告となっているが、定期的な日頃の様子や健康状態、職員の異動などの報告されることを希望すると共に、面会時に金銭出納帳の確認を家族にしてもらった場合には、サインをもらうことを希望します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、行事後に家族に集まっていたき意見や苦情を出してもらえる機会を作っているが、特に意見や苦情等は上がっていない。面会時や電話などで個人の要望があった場合には、職員は共有し話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、1ユニットが増設され法人内異動も行われているが、異動による利用者へのダメージについては、管理者も理解しており、最小限に抑えるように努めている。新人職員で介護経験のない場合には、他の施設で研修してから勤務につくようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修の年間計画は作成されていないが、毎月1回のミーティングで勉強会や、研修報告を受けて共有している。外部研修については、職員のレベルに合わせて参加するようにしている。職員が、スキルアップを目指し資格取得に取り組めるように事業所も配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区連絡協議会主催の研修会や交流会に管理者や計画作成担当者が参加したり、職員が勉強会等へ参加する機会はあるが、職員同士交流する機会は少ない。	○	職員が他のグループホームとの相互訪問や勉強会、事例検討会など交流する機会を持つ事で、事業所や地域全体のサービスの質の向上につながることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設から入所される場合には、家族に見学に来てもらい、自宅からの場合には、本人と家族に見学に来てもらい、事業所の雰囲気を感じてもらおうようにしている。入所後には、家族から情報を得たり、興味のあることを探りながら、関わりを持つ事を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、旬の野菜の料理方法などを経験豊かな利用者から教えてもらったり、戸締りや日めくりをしてもらうなど、できる事をしてもらい職員は感謝の言葉を伝えるなど、お互い支え合う関係を築いている。男性利用者の得意分野の場面作りについては、思案中である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者自身の言われる言葉や表情から、意向を把握している。ちょっとした一言で表情が曇ったりする利用者についてのアプローチの仕方については、職員とよく話し合い共有し、部屋でゆっくり話しをするなど、一人ひとりにあった対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議には、本人、家族、職員関係者が参加している。家族との関わりを短期目標に入れ協力をもらうようにしたり、かかりつけ医の指示、本人や家族の希望、職員の気づきなどを出しあった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回行い、介護計画の見直しは6ヶ月ごとに行われている。見直し時の家族の意見は、面会時や電話などで確認している。急変時や家族の要望があった場合などにはその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして入院せずに生活できるように、往診や看護師による健康管理が行われている。要望があれば病院受診に職員が同行したり、外泊支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医は、ほとんどが運営母体の医療法人だが、専門性が必要な場合には、専門病院を受診している。かかりつけ医と協力病院の歯科医が往診し適切な医療がうけられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化・終末期ケア対応指針」が作成されており、今までに看取りの経験もある。家族の意向を確認しながら、主治医、関係者と話し合いを重ね方針を統一していく方向性としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の特徴を把握しその人に対する声かけの仕方を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。個人情報の保護については、職員の入職時に誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間がゆっくりな人、部屋で食事を摂る人、毎日散歩をする人など出来る限り本人のペースに合わせ、希望を聞きだし支援するように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、車椅子でも座ったまま野菜を切ったり、お盆を拭いたり、台拭きや下膳など職員と一緒にこなしている。食事は職員と利用者と同じテーブルを囲み、食事が進むようにさりげなく介助や声かけをして楽しく食事が摂れるように心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴としているが、希望があれば毎日入浴することもできる。利用者の希望や生活リズム、体調に合わせて気持ちよくゆっくと入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の心を安定させる為に、出来ることをしてもらうように心がけて戸締りの確認や新聞取り、日めくり、体操の号令かけ、お盆ふきなどの役割がある。楽しみ事は、他のユニットに行きお話ししたり、歌や踊りを取り入れたレクリエーションをしたり、時に花見や公園、海に行くなどの気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭が広く、ポニー3匹、ヤギを4匹飼っている。芝生になっているので、日光浴やえさをあげたり、散歩したりといつでも外に出て気分転換ができる。ドライブは年2回ぐらいだが、買い物は希望すれば職員と出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。居室やリビングからも外に出られるようになっているが、夜間以外に鍵をかけることはない。外出傾向の利用者については、把握し見守りをしている。地域の方からも連絡してもらえるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下、消防避難訓練を行っている。夜間と昼間想定での避難訓練、消火器の使い方など、地域住民も参加して行われている。	○	運営推進会議などで地域の参加をお願いし協力を得られるようになってきているので、これからも継続していかれることを期待するとともに、事業所内での自主訓練、地震想定での訓練など、職員が自信を持って行えるようになることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量についても、毎食後の他おやつの際の水分についても確認している。食事の形態についても、ミキサー食、とろみ、刻みとその人に合わせて支援している。	○	旬の野菜を使った料理や利用者の希望を取り入れた食事を提供しているが、栄養バランスを法人の栄養士に定期的に見てもらい、アドバイスを受けられることを希望します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットを繋ぐ廊下の庭には常盤マンサクが赤い花を咲かせている。リビングは明り取りの光を囲むようになっている。キッチンからは利用者の様子も良く見え、ご飯の炊ける匂いや野菜を刻む音がして、生活感が感じられる。壁には、思い出の写真や折り紙で作った作品が飾られ、利用者はソファやテーブルの定位置など思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとタンスが備え付けとなっている。畳みに布団を敷いている人やベットの位置をそれぞれの生活に合わせて変えたりしている。居室には使い慣れた、ソファや時計、パイプハンガー、位牌なども持ち込まれその人らしい部屋となっている。		